

関東大震災から100年をむかえて



絵巻に描かれた朝鮮人虐殺



震災直後の上野駅付近

(上野駅付近) 惨状 震災大東日一月九年二十正

今から100年前の1923年9月1日午前11時58分、神奈川県西部を震源とする関東大震災が発生しました。東京や神奈川の都市部では、多くの建物が倒壊したほか、東京の下町などの木造住宅の密集地では火災が発生し、死者・行方不明は、約10万5千人(9割は焼死)と推定されています。

流言によって多くの朝鮮人が虐殺された

都市部は壊滅的な被害を受け、社会秩序が大混乱に陥る中、東京や神奈川を中心に「朝鮮人が暴動を起こした」「朝鮮人が井戸に毒を入れた」などの流言が一気に拡がりました。また大震災の翌日に内務省警保局長名で戒厳令が宣布され、「朝鮮人が各地で放火しており、爆弾を所持して石油をまく者がいるので厳しく取り締まるべき」という電文が全国に拡がり、全国の新聞も「朝鮮人千人と横浜で戦闘開始」「朝鮮人の陰謀 震害に乗じて放火」など、情報の出どころも不確定なまま報じました。

関東各地では、流言や新聞報道を信じた民衆が、地域を守るためとして「自警団」をつくり、都市部から避難してくる民衆の中から朝鮮人を捕まえ、暴行し虐殺しました。

また、「福田村事件(現・千葉県野田市)」や「検見川事件(現・千葉県千葉市)」のように、言葉が訛っていたり、方言を話していたことで、朝鮮人と間違われた日本人の虐殺も起きています。さらに、東京の亀戸では、警察が社会主義者を捕まえ、殺害するという「亀戸事件」も発生しています。

関東大震災の虐殺犠牲者は、2009年の政府の中央防災会議の報告書では「1〜数%」と推計しており、1千〜数千人に及ぶとされています。

3・11東日本大震災でも流言が拡がった

私たちは関東大震災時に、流言を信じた市民によって朝鮮人虐殺がおこなわれたことを忘れてはなりません。震災など社会が不安定になった時に、流言が拡がるのは過去の話ではなく、2011年の東日本大震災でも、被災地で「外

国人による犯罪が横行している」との流言が拡がり、この流言を信じたとする人が8割以上に上るといふ調査結果(東北学院大調べ)も出ています。

溢れる情報操作・プロパガンダ

ロシアのウクライナ侵攻以降、世界では、軍事の緊張が高まっています。日本国民は戦争を望んでいないにもかかわらず、日本政府は、その民意を無視し憲法改正と戦争への準備を着々と進めています。「北朝鮮のミサイル発射」や「台湾有事」などを利用し、市民の不安を煽り「防衛力強化は必要」との世論を意図的に高めようとしています。国民が真に求めているのは戦争ではなく、戦争のない平和な社会であり、今必要なのは、「防衛力強化」によってさらに軍事的緊張を高めることより、過去の戦争から学び、対話を尽して軍事的緊張をなくしていくことです。

関東大震災から100年を迎えた現在、ネットやSNSなどの普及によって膨大な情報が溢れています。真実は何なのかを見抜く力を養うことが重要です。戦時中の大本営発表がそうであったように、情報を発信する側は目的や意図をもって、真実を覆い隠して都合のいい情報を流布します。私たちは真実を見抜く眼(まなこ)と価値観を持ち、時代に流されず「抵抗とヒューマニズム」を基底に、社会に立ち向かっていくことが必要です。

JR総連は11月7日、9条連と共催で新たな戦争をさせないために、「平和集会」を開催します(リモート併用)。集会では、元文部科学事務次官・前川喜平氏よりご講演をいただきますので、多くの組合員みなさんの参加をお待ちしています!

お詫びと訂正について
広報紙第301号(8月号)3面、見出し「横澤たかのり衆議院議員へ要望書を提出」となっていますが「横澤たかのり衆議院議員へ要望書を提出」の誤りでした。大変申し訳ありませんでした。
お詫びし訂正いたします。

8月の「19日行動」に参加

8月19日(土)、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクションの共催による「19日行動」が開催され、35℃を超える猛暑の中、1,000名(主催者発表)が国会議員会館前に結集し、JR総連も在京単組と9条連の仲間とともに参加をしました。

主催者挨拶では、8月6日の広島市、9日の長崎の平和式典で各市長が「核抑止への依存からの脱却」を強く訴えたことを紹介し、核抑止力や軍拡で他国を威嚇するのではなく、物価高に苦しむ市民の生活を重視し支え合う社会、平和な社会をつくる政治への転換をめざして運動を強めようと訴えました。

また、沖縄県宮古島からの参加者は、「南の島では戦争準備がすめられ、遺体収容訓練もおこなわれており、数多くの遺体収容袋が持ち込まれている。いったい遺体袋に入るのは誰なのでしょう？全国の民さん、どうか南の島々から始められる戦争を止める行動を起こしてください！共に闘ってください！強い！」と強く訴えました。

JR総連は、引き続き各単組・9条連の仲間をはじめ、憲法9条を守り、平和を希求する仲間と連帯し、総がかり行動実行委員会などが主催する取り組みに参加していきます。



九州地協「第35回定期委員会」開催

JR総連九州地協は8月27日北九州市商工貿易会館において、第35回定期委員会を開催しました。

主催者を代表し平井議長は、近年地球温暖化による猛暑や大雨などの異常気象が大きな問題となっている。災害による鉄道の寸断は、我々の賃金や手当、更には雇用の問題へとつながっていく大きな問題である。その解決のためにCO2削減に大きな優位性を持つ鉄道輸送をさらにアピールしていなければならないと訴え、さらに①2023JR総連春闘の成果および課題、また2024JR総連春闘の課題とその克服にむけて、②赤字ローカル線存続への課題、及び鉄道輸送の全国ネットワーク維持にむけた課題。それに伴う政治活動の強化と、自治体や諸団体との連携の必要性について、③安全確立の闘いとして、現在JR東日本内で発生している様々な事象や懲罰的日勤教育について、④あらゆるテロにも戦争にも反対し、社会正義と平和を守る闘い、脱原発を実現するために、9条連との連携を強化していくこと。⑤組織強化及び拡大の取り組みの強化。⑥各県協と連携を図り交運労協や各県連合の取り組みを強化していく。など多岐にわたり提起しました。

ご来賓のJR総連柳副委員長からは、①福島原発の汚染水排出問題について。②8月5日に東海道線で発生した電化柱との衝突事故をはじめとしたJR東日本の安全問題について。③2024JR総連春闘にむけたたたかいてむけて挨拶がありました。質疑では委員より、2023JR総連春闘の報告、夏季手当の取り組み、安全確立にむけた取り組み、平和と民主主義を守る取り組み、世代交代を踏まえた組織強化の取り組み、交運労協や連合との連携と各種取り組みへの参加報告などの発言があり、その後答弁を受け満場一致で向こう一年間のたたかう方針が決定されました。

委員会終了後、九州地協結成当初から役員を担い、JR総連運動をけん引していただき、昨年引退された西原前議長長の組合員表彰をおこないました。

九州地協はJR総連方針に則り、九州の地でJR総連運動を継承発展させていきます。

【2023年度新体制】

議長	長	平井 聡一(貨物労組)
副議長	長	東 一臣(西 労)
副議長	長	田中 一男(西 労)
事務長	長	高牟禮 泰利(貨物労組)
会計監査員	長	下園 拓未(貨物労組)
会計監査員	長	大平原 一水(西 労)



連合2023平和行動in広島



JR総連中国地協は、被爆78年となった今夏、連合「2023平和ヒロシマ集会」をはじめ、広島市平和祈念式典や原水禁実行委員会の催しなど、被爆地ヒロシマでの取り組みに参加してきました。

現在、ウクライナ戦争での停戦の見通しもなく、核兵器の使用すら危惧されています。国連「核兵器禁止条約」の発効から2年が経ってもなお、「核廃絶がライフワーク」と公言している岸田首相は、条約の批准や締約国会議へのオブザーバー参加すらおこなわず、被爆国の責任を放棄しています。中国地方では、島根原発2号機の再稼働や3号機の新稼働が準備され、山口県の上関原発の新設や「核廃棄物中間貯蔵施設」誘致などの原発推進、米軍岩国基地や各自衛隊基地の機能・訓練強化や武器輸出など、核軍事色が濃くなりつつあります。

こうした中、3年ぶりに対面開催となった今年の広島での連合の取り組みは、4日の原水禁とKAKKINNとの合同による終結デモ・結集集会を皮切りにスタートしました。

5日の連合「2023平和ヒロシマ集会」では、「ウクライナ戦争や核使用の中にあっても、平和な社会の意義を認識し、平和を守る努力を続ける」「広島で開催されたG7を踏まえ、各国リーダーシップによる核廃絶を期待する」「連合も原水禁やKAKKINNなどとともに核兵器廃絶・恒久平和を目指す」ことなどのアピールを確認しました。

その後、原爆ドーム前で慰霊式に臨みました。組合員はこの集会の前段におこなわれた「折り鶴献納」にむけた折鶴の製作やピースウォーク、そして被爆路面電車乗車学習にも参加しました。

被爆から78年が経過し「ヒバクシャ」が高齢化する中で、被爆体験の風化を防ぐ伝承もおこなわれています。また「高校生平和大使」が世界中を飛び回り、若い力で核廃絶を訴えています。

JR総連中国地協は、「核と人類は共存できない」という原水禁の基本理念をもとに、これからも戦争反対・核廃絶にむけて取り組んでいきます。

連合2023平和行動in長崎



JR総連九州地協は、8月8日～9日の日程で長崎平和行動を開催し、総勢22名が参加しました。連合主催の「2023平和ナガサキ集会」への参加と、九州地協独自の平和学習を取り組んできました。

今回の平和学習では、「岡まさはる記念 長崎平和資料館」を見学し、ガイドの方に説明を頂きながら日本の「戦争被害」だけではなく、「戦争加害」の側面からの学習をおこないました。参加した若い組合員からは、「日本の戦争被害については学習したことはあるが、日本の戦争加害については考えたこともなかったので衝撃的だった」という感想もあり、実りある平和学習ができました。

連合主催の「2023平和ナガサキ集会」では、清水秀行事務局長が主催者を代表し、5月に被爆地・広島で開催されたG7サミットに触れ「核兵器廃絶は、個々の国や地域の努力だけでは達成できず、国境を越えた連携と相互理解が求められる。各国のトップリーダーは、核兵器の恐怖と悲惨さ、実相を強く胸に刻み、対話と交渉を通じて、核兵器廃絶に向けた道を着実に歩むべき。核兵器廃絶への道は容易ではないが、単なる理想や夢で終わらせてはならない。私たちの世代が達成しなければならぬ使命であり、次世代への責任である」と述べました。

ご来賓の挨拶では、大石賢吾長崎県知事と鈴木史朗長崎市長から、連合と連携し核兵器廃絶にむけて取り組んでいくと強い決意が述べられました。その後、被爆者の訴えとして山田一美氏から体験談をお聞きする

ことができ、罪のない市民を巻き込み、今もなお忘れられない恐怖を人々に植え付けた核兵器並びに戦争の悲惨さを実感しました。戦後78年が経過し、被爆者の高齢化も進んでおり、被爆者から直接このような話を聞ける機会も少なくなってきました。今後どのような後世に体験談を繋いでいくかが、私たちの課題です。

九州地協は、あらゆるテロにも戦争にも反対し、思いを共にする市民団体と連携し、あらゆる世代と、九州の地から平和を希求する取り組みを創り上げていきます。

「第24回薬害根絶デー」に参加



早稲田ゆき衆議院議員

集会には会場とリモートで多くの方が参加

8月24日、薬害根絶デー実行委員会主催の「第24回薬害根絶デー」が開催されました。冒頭、厚生労働省の前庭にある「薬害根絶誓いの碑」の前で、全国薬害被害者団体連絡協議会(薬被連)の代表から加藤勝信厚生労働大臣に、薬害根絶にむけた要望書を手渡しました。その後、弁護士会館にて開催された集会では、薬被連から厚労省に提出した要望書についての報告。続いて、新型コロナウイルスワクチン接種の副反応によって、夫を亡くされたコロナワクチン被害者・須田睦子さんから、ワクチン接種後の副反応時の状況や、SNSなどでコロナワクチン被害を訴えたところ、心無い言葉が多くあったことなど、当時の状況が語られ、そういう中でも二度と同じ被害者を生みださないために、国が責任をもって情報開示をすることが重要であると、力強く訴えました。また、HPVワクチン被害者から裁判報告がされると共に、HPVワクチン接種で重篤な被害が出ているにもかかわらず、国は2022年4月にHPVワクチン接種の積極的勧奨を再開し、男子への接種も進めようとしてことに対して、HPVワクチンは子宮頸がんそのものを防ぐ効果が実証されていない現状など、国はワクチンを受けようとする人に対して、しっかり情報を開示することが重要であると訴えました。

集会後には、厚生労働省前でリレートークがおこなわれ、薬害被害者の方や、JR総連推薦議員懇談会所属の早稲田ゆき衆議院議員をはじめ多くの国会議員から、薬害被害の現実と、これ以上の薬害被害者を生みださないための仕組みづくりが必要であると訴えました。

JR総連は、今後も国による薬害被害者救済と、薬害根絶にむけて、ワクチン接種について、実証データに基づく作用と副作用リスクなどあらゆる情報の公開など、ワクチンを受けようとする人が判断する環境の整備を求め、薬被連のみならずと連携してまいります。

薬害根絶デーとは？

1999年8月24日、厚生労働省の前庭に、サリドマイド・スモン・薬害エイズなどの悲惨な薬害を引き起こした反省と謝罪がなされ、遺族維被害者の強い願いを受けて、「薬害根絶 誓いの碑」が建立されました。そして、毎年8月24日を「薬害根絶デー」として、薬害の根絶と被害者救済を願い、「碑の前の誓い」をはじめ、薬害根絶のために取り組みをおこなっています。

ろうきんのキャッシュカードならコンビニなどの提携ATMで便利に使えます

ろうきんのキャッシュカードで引出しができる場所はコチラ

rousey 三井住友銀行 三菱UFJ銀行 net 三井住友銀行 三井住友銀行 VIEWALTY

ATMでお出しの手数料がお客様に有利な場合があります。

「もしも」に備え「もしも」を防ぎ 「もしも」に向き合う。

たずけあいの輪をむすぶ 全労済 全労済 全労済

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

あなたと家族に安心届けます。保険はおかせください。

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店・伊東さつき会館

〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-2-13 目黒さつきビル TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198

JR総連・各単組賛助団体

鉄道ファミリー 検索